

「危険性除去」は 基地撤去でこそ

沖縄・辺野古米軍基地建設

中止を!

沖縄県名護市・辺野古への米軍新基地建設の強行が、日米政府によって進められています。

せめて「子どもの上を飛ばさないで」の願いも放置

政府は辺野古に基地を造る理由を、「世界一危険」と言われる宜野湾市・普天間基地の「負担軽減」のためだといいます。住宅密集地の普天間基地周辺では米軍機が低空飛行し、2018年12月に保育園と小学校に米軍ヘリの部品が落下したほか、基地所属機が県内外で事故を多発させています。重大事故を繰り返すオスプレイは24機配備されています。

ところが政府はこれらの危険をなくす努力はせず、保護者らの「せめて子どもたちの上空を飛ばさないで」という願いは放置されています。辺野古の基地予定地に広がるマヨネーズ状の軟弱地盤は大規模な地盤改良が必要で、完成の見通しは立っていません。普天間基地周辺に住む人々を、いつまで危険にさらすつもりでしょうか。



再び沖縄を戦場にさせないために

辺野古の新基地は耐用年数100年とも言われ、普天間基地になかった新たな機能を伴う一大軍事要塞化計画です。軍事訓練は拡大するばかりです。

有事になれば標的にされるという懸念が沖縄で広がっています。日本が戦場となるとしたら、米国の対中戦略に自衛隊が加わり、それに巻き込まれる事態です。沖縄を再び戦場にさせないために日本政府がすべきなのは、憲法9条の立場で外交に徹し、東アジアの対話の枠組み作りと非核化実現に力を注ぐことです。



辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地撤去を求める署名にあなたも!

日本平和委員会 2024年12月発行
一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」(旬刊)、「平和運動」(月刊) 発行中
<http://j-peace.org/> (t) (f)

